

# アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025

ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>



三岸好太郎「赤い肩かけの婦人像」

1924年、油彩／カンバス、縦66.0cm×横51.0cm（北海道立三岸好太郎美術館蔵）

三岸好太郎は、変転とする画風によって大正から昭和初期を駆け抜け、日本近代洋画史の中では欠かすことのできない定着した存在となっていますが、その背景には、作品が優れていたばかりではなく、土方定一、匠秀夫という優れた研究者や普及者に恵まれたという事情もあります。しかしながら、普及に最大の貢献をしたのは、妻であり画家であった三岸節子でした。節子は夫亡き後、積極的に三岸姓を名乗りはじめ、機会ある毎に随想に好太郎の思い出を書き記しています。また、自らの作品と交換してまで夫の作品を集め、北海道に寄贈することで、三岸好太郎美術館の開館へと結びつけています。

その節子を好太郎は何点か描いています。これはそ

の中でも初期の代表作と言える一点です。

「女子美時代、ライトレッドのエリマキをしていて、形は四角、長いフサをたらしていた。あのカルメンのエリマキに似ている。その私の肖像を描きに好太郎はずいぶん時日を重ねた」（節子）。

節子と恋愛中の好太郎は、モデルを口実に彼女と過ごす時をできるだけひきのばしたかったのかもしれませんが。それだけに本作は、好太郎にしては珍しく綿密に描かれており、のちに最大の普及者となる節子への深い愛情が漂う作品となっているのです。

（4月1日～6月26日に開催の春の所蔵品展「三岸好太郎に関するノオトー節子が解説する好太郎」展に展示予定です）

# アメリカ東部の旅 (10/10~10/23)

北海道美術館協力会理事 山口 節子



近代美術館の水上館長さんの発案で「アメリカ東海岸の旅をしてみませんか」というお誘いがありました。この旅の主眼は「バーンズ・コレクション」を始め、各地に点在する大小の美術館を、ゆっくり、楽しく観て歩こうという計画でした。

また、同時にアメリカの歴史や文化を考えるうえで重要な施設や場所を見学するというものでした。私は「バーンズ」と聞いただけで参加することを決めまし

た。それからこの旅のお世話係として、浦田さん、岩田さん、関川さん、私の四人で準備を始めました。この旅の手配に当り、ワシントン在住で旅のコーディネーター亀之園さんと、電話、FAXで何回も連絡をとりながら進めました。参加者は三八人。いよいよ出発の前日、台風が北上しており、北海道も暴風圏内に入っているとテレビのニュースをみながら遅れてくれることを祈り、とても心配でした。

一八ヶ所。野球の殿堂、野外博物館等、沢山の見学をしました。その中から何ヶ所か感想を書いてみたいと思います。

(1) 野球には「隠し玉」というのがあるようにこの旅の「隠し玉」国会議事堂の見学です。日程表に載っていない思いがけない出来事に「エー」と言っ。厳重なチェックを受けたあと議員食堂で昼食。その後エドワード・ケネディ議員の執務室へ。壁にはケネディ大統領の笑顔の写真が飾っており、ハンサムな議員秘書がドームの下にある広間を案内してくれました。

(2) メリーランド州ボルチモア、ペンシルバニア州、ワイエス三代美術館へ。ブランドワイン川のほとり、レンガ造りの落着いた美術館。開拓期から現代までの農村生活を表現した作品が多かった。雨あがりのせい

久 浦田 氏  
画 浦田 久 氏  
翌日は「カラット」した青空で、私達の旅を力づけてくれる様な好天に恵まれました。一三時間三〇分。予定通りワシントン・ダレス空港に着きました。亀之園さんの出迎えて、これから二日間の旅が始まります。アメリカ大陸を専用バスで走ります。訪問した美術館は

か、緑が美しく、アメリカの歴史をみた様な気がしました。その後この旅のもう一つの主眼はアミッシュ地方をみることに。この地方に住む人々の生活というのは、馬車やローソクで自然と共に生活している。教育も小学校まで宗教的な教えを今なお守り続けている人達。何か共感するものがありました。

(3) 待望の「バーンズ・コレクション」の見学。皆んな「ウキウキ」している。「幻のコレクション」と言われている。バーンズについて



画 浦田 久 氏



バーンズ・コレクション

に思いましたが、とにかく楽しい。お庭は芝生の刈込みが見事でした。アメリカの文化が生んだ産業として芝刈機が発展したとか…。時間の許す限り堪能することが出来大満足でした。



ノーマン・ロックウェル正面入口

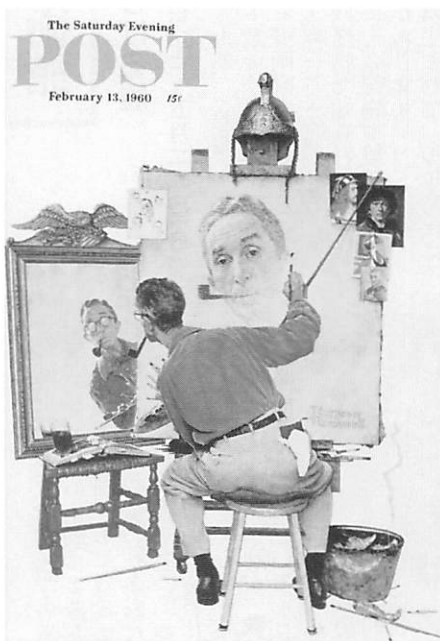
園部学芸員がバスの中で解説。高級住宅街の中をバスは進みます。この地域はバスの乗り入れは禁止されているのですが、亀之園さんのお力で途中まで入ることが出来ました。小雨の中五分程歩く。とても清々しい。澄みきった美しい景観の中に佇む優雅で親しみやすい美術館に入ると、作品が各部屋の壁に、左右対称に並び殆どが同じ大きさで、同じ画家のものに統一する手法を取っていると「こちゃ」しているように思いましたが、とにかく楽しい。お庭は芝生の刈込みが見事でした。アメリカの文化が生んだ産業として芝刈機が発展したとか…。時間の許す限り堪能することが出来大満足でした。

心洗われる美しさでした。ボストン美術館へは三度目の訪問です。ルノアールの「ブーヰアルの踊り」は等身大に近い三点の作品の一つ。村の娘が楽しくダンスをしている絵。この絵を借りるには一億円、その為の保険料数千万円とか……。(5)マサチューセッツ州ストックブリッジ、美しい街に小さなノーマン・ロックウェル美術館。アメリカン・スピリットの原点を描き続けた画家。サタデー・イブニングポストの表紙を風刺画で描いた、ユニークな作品が、



亀之園さんと私（山口）

私達に笑いと共感をあたえてくれました。雨中、館長お勧めのクーパーズタウン。野球の殿堂へバスは走りまです。野球の発祥地として野球のファンなら一度は行ってみたい所だと思えます。(6)最後はニューヨーク。旅のしめくくりはやはりメトロポリタン美術館。とにかく広いので順序よく見学しないと時間がたりません。フェルメール「水差しを持つ若い女」に出合え、疲れが癒されました。旅のもう一つの楽しみはミュージアム・ショップです。沢山のお土産と思いつくものにつめ込み無事一二日間の



「三つの自画像」  
それぞれの違う自画像になっていることに気がつきますか

旅は終わりました。この旅は水上館長と亀之園さんの交友のお陰で計画され、素人だけのお世話係でしたが、手づくりで一生懸命準備しましたので参加頂いた皆様に喜んで頂けたと思っております。岩田さんが今回は「行く前に勉強し」「本物をみて勉強し」「帰って整理しながら勉強」と三回勉強出来たと話されました。本当にその通りだと実感しました。館長をはじめご参加下さいました皆様のご協力ご支援に心から感謝申し上げます。  
(平成十年六月から  
美術館協力会理事)

## 近代美術館

サヴァリン・ワンダーマン・コレクション  
ジャン・コクトー展

芸術の境界を越えた男

四月一九日(火)～五月二九日(日)

一八八九年、パリ近郊の裕福な家庭に生まれたコクトーは、早熟の詩人としてパリの文学界にデビューしますが、その後は、まさに「芸術の境界を越える」革新的な活動を展開していきます。自らをギリシア神話のオルフェウスと同一化しながら詩作を行う一方で、そのオルフェウス像を繰り返し美術作品の中に描き出しています。第一次大戦中に執筆したバレエの脚本『パラード』は、パリの市民に大きな衝撃を与えました。大戦後のパリで活躍した作曲

家集団「六人組」の結成に関わったのもコクトーです。また『詩人の血』『美女と野獣』『オルフェの遺言』など、映画監督としても世界的に多くのファンを獲得しています。コクトーは一九六三年に七四歳で亡くなるまで、ジャンルを越えた独自の美学により芸術界に革新をもたらしたのです。

本展では、欧米にある膨大なワンダーマン・コレクションから選ばれた油彩、水彩、デッサン、写真、彫刻、陶芸、タピストリー、ジュエリーなどに加え、コクトーとの交流を物語る詩人堀口大學の貴重な書籍資料も併せた約二八〇点の出品



クルル 1926年  
又・メーの肖像  
ジェルメー  
《コクトー》  
作により、コクトーの創造性豊かな世界を紹介いたします。

## 三岸好太郎美術館

生誕一〇〇年 三岸節子展

九月一七日(土)～一〇月二六日(水)

好太郎の妻・三岸節子の生誕百年となる本年、画業全般を改めて見直す本格的回顧展を開催します。

三岸節子は、一九〇五年愛知県起町(現・尾西市)に生まれ、幼いときから絵画の道を志します。一六才で上京し、岡田三郎助のアトリエに一年間通った後、二一年女性美術学校(現・女子美術大学)に入学、在学中に好太郎と結婚します。二五年にそとって春陽会に入選したのを皮切りに、結婚生活と子育ての傍ら本格的に画家として活動していくこ



「ブルゴーニュにて」1989年

今回の展覧会では、そうした三岸節子、芸術の全貌を、初期から晩年まで代表作六十点余りにより紹介いたします。

とになります。夫が亡くなって以後も、独立展や新制作展を舞台に発表を続け、また女性画家仲間と女紳会、七彩会などを結成するなど、女性洋画家の道を時代の先頭に立って切り開いてきました。六十才を過ぎた六八年からは、ヨーロッパにアトリエを構え、本格的に風景画に取り組んでいくこととなります。そのあくなき追求は九四才で亡くなるまで尽きることなく続いたと言っています。

## 旭川美術館

大 水木しげる展

oh! 四月九日(土)～五月二日(日)

「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔くん」「河童の三平」や多数の妖怪画集により誰もが知っている漫画家水木しげる(一九二二～)の全貌にせまる展覧会です。水木の作品は妖怪物で知られています。水木以外の戦記物や風刺漫画など多数の作品があります。

彼は、鳥取県生まれで、少年時代に近所の「のんのんばあ」から不思議な話を聞いた体験、南方での戦争体験、戦後に紙芝居や資本漫画を書いていた貧困時代などのさまざまな体験があり、人生それ自体も非常にユニークです。



水木しげる「円卓を囲む鬼太郎一家」1993年  
水木プロダクション所蔵 ©水木プロダクション

水木の多数の作品と波瀾の人生の双方を多角的に掘り下げる内容となり、広く老若男女が楽しめる展覧会です。

## 函館美術館

フランス国立図書館所蔵  
ロートレックとモンマルトル展

四月九日(土)～五月二五日(日)

アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック(一八六四～一九〇一)は、フランス、トゥールーズ県アルビの由緒ある貴族の家に生まれました。幼少の頃二度の骨折事故がもとで足の成長が止まるといふ不幸に見舞われますが、天性の画才に恵まれ、一九〇一年にわずか三六歳で天逝するまで、世紀末パリの伝説的画家として時代を駆け抜けました。

素描の才能に恵まれていたロートレックは、生涯にわたって四〇〇点近くの版画やリトグラフによる三〇〇点のポスターを残しています。とりわけ一八九一年に初めて制作されたポスターは、ポスターを芸術にまで高めた点で近代的なポスターの出発点となりました。本展は、ロートレック・コレクションで知られるフランス国立図書館の所蔵品から版画、ポスター九四点を厳選し、刷りの過程など創作の秘密に迫ります。あわせてシェレやボナールら同時代のポスターや日本の浮世絵版画など二九点も展覧します。



《エルドラド、アリストイド・ブリアン》  
リトグラフ・紙、1992年

## 帯広美術館

柳宗悦の心と眼  
柳宗悦の民藝と巨匠たち展  
富本リイチ・河井・濱田・芹沢・棟方・黒田

七月二日(火)～九月四日(日)

一八八九(明治二二)年東京に生まれた柳宗悦は、独自の思想を展開した近代日本の代表的な思想家の一人です。民藝運動の創始者として広く一般に知られていますが、はじめは雑誌『白樺』を舞台に芸術、宗教、哲学、科学など幅広い領域に及ぶさまざまな論文を発表していました。その後、朝鮮陶磁器との出会いをきっかけに、関心の対象を東洋美術さらには日常的な日本の工芸品の造形に大きく転換させ、「民衆の工藝即ち民藝こそが美の本質

である」とする民藝運動の提唱者として、また中心的に活躍した推進者として、日本各地の民藝調査と収集に携わり、民藝運動を実践しました。戦後は、浄土教研究を通して美と宗教の関係を探り、最後まで美の領域を深める思索を行いました。

本展では、陶器や木工、金工、漆芸、染色、織物、絵画など、柳宗悦が収集した李朝工芸や日本各地の民藝品、さらに民藝運動に賛同しそれぞれに影響を受けた作家たちの作品約一七〇点を紹介します。



濱田庄司  
《胎青釉掛分白格子文大鉢》1970年  
約一七〇点を紹介します。

## 釧路芸術館

黒澤明アート展

AKIRA KUROSAWA DRAWINGS

四月二三日(土)～六月二日(水)

世界中の映画人に大きな影響を与え、数多くの名作をのこした日本映画界の巨匠黒澤明は、若き日に画家を志したほどの豊かな画才を持って、映画の構想や制作の際にも、一つ一つの場面のイメージを迫力あふれる絵コンテに描き出しました。

本展では、数千点の絵コンテのなかから「影武者」「乱」「夢」ほか、約一六〇点の秀作を厳選して紹介します。黒澤にとって、まさに「絵(画)」と



《「夢・飛ぶ」私の影に呼ばれる私》  
©Kurosawa Production Inc.  
Licensed exclusively by HoriPro Inc.

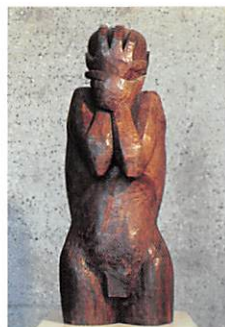
「映像」は一体のもの。身魂こめて描き上げられたこれらの絵画のなかに、映画の躍動を感じることができでしょう。映画への熱い想いと気迫のこもる作品を通して、黒澤芸術の創造の秘密に迫ります。

## 芸術の森美術館

生誕一〇〇年本郷新展

五月二日(土)～六月一日(日)

札幌出身の彫刻家・本郷新(一九〇五～一九八〇)は、北は稚内から南は鹿児島まで全国各地に八〇点ものモニュメントを設置し、戦後日本の彫刻界をリードした作家です。彼の作品には、『わだつみのこえ』(一九五〇年)をはじめ、『嵐の中の母子像』(一九五三年)、《無辜の民》シリーズ(一九七〇年)など、いずれも無名の英雄や困難に耐えながら生きる民衆の姿を、の



「哭」1959年

びやかな人体美のもとに称揚するものが多く見られます。この展覧会では、札幌彫刻美術館のほか、道外にある彼の代表作を含めた彫刻作品およそ七〇点を集め、ヒューマニティあふれる本郷芸術の全貌に迫ります。また、全国に設置された野外作品を写真パネルにより紹介します。

## 札幌彫刻美術館

生誕一〇〇年本郷新展

五月二日(土)～六月一日(日)

彫刻家本郷新の生誕一〇〇年を記念して札幌芸術の森と当館の二会場で開催を主催します。

当館では、肖像彫刻と前期の作品を中心に展示します。本郷は、空間芸術としての彫刻を意識したモニュメンタルな造形を生涯追求した作家です。その一方、デスピオの洗礼を受けた本郷は、魅力的な肖像彫刻を制作しました。躍動的な人間賛歌の野外彫刻と対極ともいえる頭像は、量感を捉えた静謐な表現をしています。本郷は、肖像彫刻について、「似てる似てないを判断する人はいなくなるのだから、彫刻としての美があればよい彫刻になる」と語っています。モデルの人間性に迫りつつ、



「こども」1934年

を、七四年の彫刻家の締めくくりとしてご覧ください。

彫刻としての完成度をめざしました。展覧会では、先ず家族と友人をテーマにした作品群をご覧いただけます。妻やわが子をモデルに、夫として父として制作した作品は、温かいまなざしが感じられます。友人や依頼を受けた肖像彫刻は、本郷の幅広い交友関係を垣間見せてくれます。

およそ五〇年の彫刻家として生きた本郷が、亡くなる直前まで取組んだテーマは磔刑のキリスト像でした。本郷は、宗教的な救いを求めたのではなく、彫刻家の眼でとらえた造形的な興味から何枚ものデッサンを描きました。回復できずに彫刻にならなかったキリストのデッサンと、初公開である未完の彫刻作品

# MUSEUM CALENDAR

2005. 4 ~ 2005. 10

美術館の特別展覧会ご案内

※貸館の場合は、会員登録は使えません

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	4/2~4/10 貸館 (2005/4)	4/19~5/29 サヴァリン・ワンダーマン・コレクション ジャン・コクトー展	6/7~7/18 円空さん ほとけさま、笑ったよ。	7/26~8/28 ベラルド・コレクション 流行するポップアート展	9/9~10/22 貸館 (アートオブスター・ウォーズ展)		
三岸好太郎	4/1~6/26 所蔵品展(第I期) 三岸好太郎に関するノオト 節子が解説する好太郎		7/1~9/11 所蔵品展(第II期) 画家・三岸好太郎の生涯 天才新進画家から31才の死まで		9/17~10/26 特別展 生誕100年 三岸節子展		
旭川	4/9~5/22 ohl 大 水木しげる展	5/28~6/26 ロートレックと モンマルトル展	7/9~7/18 貸館 (前ロマン派回 記委員会発動)	7/23~9/11 特別所蔵品展 時の情景-美術の中の時間	9/17~11/6 グリム兄弟とグリム メルヒェンの世界展		
函館	4/9~5/15 フランス国立図書館所蔵 ロートレックと モンマルトル展	5/21~7/3 幻のロシア絵本 1920-30年代展	7/9~8/28 黒澤明アート展	9/3~10/16 天使がいた時代- ヨーロッパ絵画展	10/22~12/18 北海道の 詩歌と母 の世界		
帯広	4/8~6/26 財団法人荒井記念美術館所蔵 ピカソ版画展 育の時代から晩年まで		7/12~9/4 柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展 畠本・リーチ・河井・瀧田・芹沢・棟方・黒田		9/16~11/7 デンマーク・夢を追いつづけた旅人 アンデルセン生誕200年展		
釧路	2/5~4/13 光と影 の彼方に	4/23~6/22 黒澤明アート展	7/2~8/17 ももちゃん芸術祭もってワオワオ! ~夢とウフフのエキスポ2005(仮称)	8/27~10/13 美の匠たち- 伝統の技・優雅の彩 (東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展) (仮称)	10/22~12/7 ぐるっと漫遊 北海道 (仮称)		
札幌芸術の森	4/2~5/15 美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶ モダン・アートの楽しみ方	5/21~6/19 生誕100年 本郷新展	7/2~8/28 札幌芸術の森美術館開館15周年記念 イサム・ノグチ展	9/11~10/23 造形集団 海洋堂の軌跡			
札幌彫刻	3/26~5/15 平成17年度前期収蔵品展 躍動する裸婦の魅力	5/21~6/19 生誕100年 本郷新展	6/24~8/21 馬と少年シリーズ	8/27~10/10 第12回本郷新賞 受賞記念彫刻展	10/15~3/20 平成17年度 後期収蔵品展 鳥を抱く女 シリーズ		

◦ A ・ R E ・ K O ・ R E ◦

「ジャン・コクトー展」の特設売店 を 4/19~5/29の展覧会期間中

特別展出口に開設します。ジャン・コクトーの関連グッズを取り揃えております。

どうぞお楽しみに!

— 北海道美術館協力会 ミュージアム・ショップ —

挑発する美術館



藤井 正治

兵庫県立美術館を訪ねました。安藤忠雄氏設計によるこの建物は、その大きさだけでも十分話題になりそうですが、「美術館」という入札物としてもユニークと言えます。まず、展示室へなかなか行けない。私のような小心者は、本気で悩んでしまいます。「最初は、私たちもとまどいました」とは案内ボランティアの方。案内表示は殆ど無い。エ

「愛する者と」



近藤 亜樹

今回「北海道美術館協力会会長賞」という賞を頂けたこと、とても嬉しく思います。油絵と出会って四年が経った今、自分と戦いながら、何かをひたすら探し求めてきました。

制作をはじめて三週間。思いをひたすらキャンパスにぶつけ、目の前にある壁にぶつかりながらもこの絵を描きあげたこと。毎日が戦いでとても辛く弱音をほく事もありませんでしたが、一緒に制作している仲間達の姿に刺激されながらもやり遂げた事は、私にとっても意味があります。

レベーターは奥に隠され、階段を上ると途中で行き止まり。展示室へ通じる階段空間は「要塞」を思わせる。何とも挑発的であり、刺激的であります。「いらっしやいませ」ではなく「ようこそ非日常の世界へ」と言った趣なのです。壁面は大きなガラスが使われ、空間も充分に開放的です。なのに、ガラスの向こうに行く通路は遮断されて閉じこめられたような気分になる。常識という観念をうち砕くような設計です。展示替えて作品を観ることはできませんでしたが、安藤ワールドとしての作品『美術館』を十分に楽しませていただきました。

この絵の意味「愛する者と共に生きる喜び」。私が日々の中で敏感に感じる事です。人はそれぞれ個性や価値観が違うように愛の形も様々です。家族、恋人、友達、先生…今まで出会ったすべての者に沢山の愛を感じ、伝え合うことは素晴らしいことだと私は思います。だからこの二匹の力二の姿をかり、人間を表現したかった。人によって重ね合わせる者は違うけれど、共通するものは沢山ある。

絵を描くことは私にとって幸せな事であるように辛く苦しい事でもありません。私を表現する唯一のもの。だから私はこれで足跡を残していきたい。絵は自分を映す等身大の鏡として、これからも自分の心の中を素直に表現できればいいなと思います。(札幌大谷高校二年・美術科一期生)

第46回学生美術全道展、北海道美術館協力会会長賞受賞

新会員紹介

2004年 8月～2005年 2月 (敬称略)

—ご入会ありがとうございました—

8月

札幌市 山本 敬春  
北広島市 村上 敏春  
函館市 阿部 由美  
札幌市 杉本 ひとみ  
" 富山 美佳  
" 富山 南宮 篤  
" 富山 山小森 眞  
" 富山 小森 幸  
旭川市 山本 信

札幌市

" 富山 池松 飯  
9月 札幌市 大玉 阿部 博宏  
" 札幌市 大玉 阿部 博宏  
10月 札幌市 滝池 見田 恭  
美瑛市 札幌市 札幌市

11月

札幌市 秋元 洋子  
札幌市 平池 瑞照  
" 池加 藤 貴  
12月 札幌市 佐藤 典代  
1月 札幌市 宮高 勝康  
余市町 余市町 高岡 康育  
札幌市 札幌市 安松 伸

2月

北広島市 田三松 燭浦 廣千 子  
札幌市 山本 山本 千隆 春子  
" 橋川 本 百合子  
" 加濱 端風 子  
" 堺出 可裕 子  
" 吉川 田幾 久子  
" 川中 田房 美紀子  
" 川中 山巴

A ★ MUSE ★ LAND ★ 2005から

“次は何を描こうかな…”

ほのかな照明の中  
空間と人と作品も一体に

これは何かなあ…



WELCOME

# アルテピア会員募集

世界の art に出会える

来館者の声 A★MUSE★LAND★2005を見て

“2004”が面白かったので、再び子どもと“2005”へ。参加型で共に楽しめる企画は、他にあまり例がないように思われます。影絵やワックスの作品は大人が見ても視覚的に美しく、パラシュートは家で繰り返し遊ぶほど息子が気に入っていました。“2006”も楽しみにしています。 青森県三沢市 斉藤 幸得

年会費等詳細は北海道美術館協力会（アルテピア）札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025  
ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>

## 秋の四国・尾道美術館めぐりから



藍住町藍の里館入口で



阿波木偶人形会館で…



栗林公園にも寄りました

2004. 11. 1～6 実施  
第22回 美術研修の旅  
企画＝北海道美術館協力会

編集  
だより

「実に多くの職人たちは、その名を留めずにこの世を去ってゆきます。しかし彼らが親切に持えた品物の中に彼らがこの世に生きていた意味が宿ります」と柳宗悦は言っている。

柳宗悦の「民藝こそが美の本質である」とする 民藝運動の考え方と本質的につながると思われる。

7月12日から、「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」が帯広美術館で始まります。

今年も美の職人や芸術家に会いに行きませんか？

※3月17日の読売新聞で「アルテピア」が紹介されています。ご覧になられましたか？ (F)